

仏様のおはなし新シリーズ第91集「当たり前で？はないのち」

2005年、白血病のため38歳で世を去った歌手・本田美奈子さんの闘病生活を追つたドキュメント番組を観たござりました。その中でハツとする場面がありました。 彼女が歌を作る為に書き留めていたノートの言葉です「頬つぺたに風が当たることで ことできえ、素晴らしいことだつたんだ」というと言葉でした。私でしたら、外に出て頬つ ぺたに風が当たつても、冷たいとか、暖かいくらいしか思えないのですが、彼女は素晴らしいと感じられた。彼女には思えて、私には思えないこの違いはなんだらうか。

それは、自分自身のいのちに真正面から向き合つて生きている者とそうでない者との 違いではないかと思ったのです。彼女はご自身の病気のことを知つていましたから、あと どれくらい生きることができるのだろう？1年だろうか。半年だろうか？3ヶ月だろうか。1ヶ月だろうか？もしかすると数日のいのちだろうか。私が思いますに、彼女は朝 目覚めた時は、今日も瞼を開けることが出来た。夜寝る時は、今日も1日いのちを頂け た。有難いなあ、嬉しいなど感謝の日暮をしておられたのではないかと思うのです。だか らこそ、頬つぺたに風が当たることでさえ素晴らしいというと言葉となつて出てきたので しょう。元気な時は当たり前だつたいのちが、当たり前ではなかつたと気付かれたのだと 思います。

明日があるか分からぬいのちを頂いていたのは、私自身でもありました。私のい のちに明日の保証はありません。お釈迦さまのお言葉には諸行無常とあります。移り変 わり何が起きても不思議ではない有難い人生を歩んでいました。阿弥陀如来の願いは、あ なたの本当のいのちを生きてくださいという願いです。わたしのいのちは、わたしが1 番知つていると思いたいですが、わたしの本当のいのちに出遇うことは難しいようです。

ありがとうという言葉を漢字で書くと、「有る事 難し」と書きます。ですからありがとうの意味は、 当たり前では無いという意味になるのです。わたしのいのちは、当たり前のいのちではなく、数えて も数えきれないような有難いのちを頂いていました。 しかし、どうでしょう。そのような有難いのち を頂いていると聞きながらも、怒りや貪り、愚か さに振り回され、自らを省みることがありません。 人間は必ずいのち終えていく。それは、浄土真宗 のみ教えに出遇われられた人も、そうでない人も 同じです。どうかお念佛に出遇つておくれ真のい のちを生きておくれ。虚しい人生は送らないでお くれと南無阿弥陀佛がお念佛となりはたらきか けてくださっています。

